

意外性を楽しもう！

町田 寛典さん



YOKOHAMA ACTION PLANNER
で若手社会人をまきこんだ
活動で地域を盛り上げてい
る町田さんにお話を伺いま
した。

初ボランティアは中学生のとき

私が初めてボランティアをしたのは、中学生のとき。「障がい児と遊ぼう！」というボランティアに、友人と参加しました。おもしろそうだなという気持ちで一歩を踏み出したことがきっかけです。堅苦しいイメージとは異なり、楽しかったことを覚えています。

その後、高校時代は、ボランティアから離れていましたが、大学1年生のとき、サークルの勧誘でもらった一枚のチラシに再び心を揺さぶられました。

そのチラシは国際協力関係のボランティアサークルで、もう一度ボランティアをやりたいと強く思いました。勧誘してくれた先輩と話をしていたら、そのままミーティングに連れて行かれ、私の活動は始まりました。大学時代は、卒論も NGO 関係と、活動にのめり込んでいました。

市民活動を広める人へ

大学卒業後は、市民活動を広めていく人になりたいということで地元の新聞社に6年勤めました。市民活動に関するWEBをつくる、市民活動に関わる部の配属になりました。やりたいという強い気持ちが、上司に伝わったのかもしれません。

大学卒業後、活動をする側でなく、活動を広めていく立場になった私。他の活動を見るたびに、自分もやりたいという気持ちが強くなっていくのがわかりました。仕事の取材の中で、今の活動の代表との出逢いがあり、再び市民活動の扉を開くことになりました。

社会人になると、市民活動やボランティアをやらなくなってしまいがちですが、きっかけさえあれば、また参加してもらえるとということを、そこで感じました。私のよ

うに想いを持った社会人はたくさんいるのではないかと思います。参加しやすくする環境づくりの担い手として、再び活動が始まりました。

「YOKOHAMA ACTION PLANNNER」の設立と運営

「YOKOHAMA ACTION PLANNNER (通称 YAP: ヤップ)」の立ち上げに携わり、「YAP」も3年目になるうとしています。最初はメンバーをWEBで応募していましたが、今では約50名の登録があり、担い手が増えています。

横浜で、若者のボランティア活動への参加に対するニーズは増えているものの、広報・PR力不足もあり、なかなか両者が結びつかないという現状があります。「YAP」では、社会人を中心とした若者のアイデアやスキル、主体性を活かして、地域やNPOの団体と手を取り合いながら、一緒に考え、地域を盛り上げていこうと活動しています。

具体的には、NPO法人のリーフレット・チラシWEB作成を通じた広報支援や、イベントを盛り上げるボランティアスタッフの運営など、社会人ならではのスキルを活かした活動が中心です。そうは言っても、学生も大歓迎で、学生には学生ならではの視点やアイデアを活かして、幅広く活躍しています。



<YAP 集合写真>



<YAP でフリーマーケットに参加>

社会人ならではの関わり方

学生時代、ボランティア活動などに力を入れていたものの、忙しくなり、地域から離れてしまう若手社会人が多く存在します。どうしても、学生時代と同じ関わり方での参加は、難しくなるのが現状です。でも、社会人にしかできないこともあるのです。

社会人が仕事で得たスキルを活かし、ボランティア活動をする「プロボノ」ならば、社会人のための関わり方を考えられます。

社会人用に、無理のない役割や関わり方を提示してあげれば、仕事をしながら活動できる環境をつくっていただけますので、担い手が増えていくことにつながってきます。

NPO法人にニーズを聴くことと同時に、社会人と一緒にNPO法人の課題解決を目指したいと思います。

YAPで見えてくる仕事のやりがい

キャリアUPというよりは、自分のやっていることの実感が得られるということが最大の魅力です。自分がやったことが、すぐに目に見えるということがやりがいにつながると感じています。

例えば、普段の仕事では、膨大なプログラム的一部分をつくるような、目に見えにくい仕事をしている人の場合、仕事の中では自分がやった成果は見えにくいけれど、それを活動に持ってきたときに、培った技術がすぐに目に見える形となって活かされます。そのような機会を積んでいくことで、仕事をやっていてよかったというやりがいにつながると考えています。「YAP」で自分の仕事を活かすことで、仕事のやりがいが、「YAP」で見えてくるという相互作用があります。自分自身にとっても嬉しいことであり、それは地域にとっても嬉しいことです。

仕事も市民活動も相互にうまくいくような関係性を、見出してくれればよいと思います。

街歩きを最初の一步に

地域に対して関心を向けてもらえるきっかけづくりをしたいと考えています。若い人たちが「市民活動」というもの抜きに地域を知れる機会を作っています。

「横浜珍百景」は若者の視点で横浜の魅力を発信し、楽しみながら地域を知り、地域を好きになってもらいたい！という思いで始めた街歩きのプロジェクトです。市民活動に関心のある人たちだけでなく、どんどん新しい人に、地域を知ってもらいたいと考えています。

「横浜珍百景」は、ただ街を歩くだけでなく、若者になじみやすいツイッターの仕組みを取り入れています。その仕組みやWEBも「YAP」が中心となって作っています。

この街歩きは、観光地を歩くのではおもしろくない。知らない横浜、横浜という地域の多様性を感じてもらえたらと考えています。街歩きをきっかけに、どんな形でも地域を知ってもらえたら嬉しいです。地域のおもしろさを発見し、どんな形でも地域に関心を持っていただけたらと思います。

何か目的がある人に、目的に合うものだけを提供するのはすごくもったいないと思います。ちょっとしたきっかけから、他のものと出会えるかもしれない。地域には、そんな魅力がたくさん隠れています。だから、時間をかけてでもこのような活動をやっていくことには意味があると思います。

新しい視点から生まれるもの

活動をしていると、新たに参加してくれた人に刺激をもらうことが多くあります。広報するときの、メッセージの視点に感激することがあります。中に入っている人



＜地域のNPOと連携してもちつき大会＞



＜広報支援のためにNPOへヒアリング＞

と新しく来た人の視点は違っていて、新しく来た人が発信するメッセージは、初めて目にする人にとって伝わりやすいです。

こんな魅力があったのかとか、そのような視点からこの団体は見えるのかとか、新鮮な部分が刺激になります。中に入っている人にとっても、それが新鮮です。どっぴり市民活動にはまっている人と、これから市民活動に一步を踏み出す人が共に手を取り合ったら、より地域が盛り上がっていくのではないのでしょうか。

意外性を楽しもう！

ボランティアをしたい！という方は多くいると思います。でも、「何ができるか？」と考えたときに、「私は、何も出来ないから。」と一步を踏み出せない人も少なくありません。でも実は、その人の魅力は隠れているように思います。

自分が得意と思っていなくても、他の人の方が、自分の魅力を発見してくれます。「YAP」でも、活動を始めてから自分の能力に気付き、それを活かして活動している人がいます。自分で見た自分と、他の人から見た自分は異なってくるように思います。その人自身が知らないことに気が付けることが多いので、心配する必要はありません。

また、その人はどんな人なのか、何に興味があるのか、何をしてきたのか。それを聞くだけでも、他人から見た自分は違ってくると思います。自分のほんとうのおもしろさは、隠れていると思うので、活動を通して人に発見してもらおうということも楽しみの一つです。

市民活動や「YAP」は一人でやっていくのではありません。みんなで補い合って創っていくので、完璧である必要は全くありません。何か特別な技術を持っていなくても、アイデアなど、ほんのちょっとした部分も求められています。同時に、活動を通して楽しくスキルUPもしてもらえれば嬉しいです。

「自分とはこうだ！」ではなくて、自分の知らない面を、活動を通して出会えたらおもしろいですね。そうすると、活動はもちろん、地域全体が盛り上がってくると思います。自分がやりたいことはコレとか、自分ができるとはコレと決めてもらったらもったいない！地域と一緒に、知らない自分を発見してみませんか。

編集後記 さすが元新聞記者の方だと思いました。口から流れ出す言葉そのものが、起承転結のある文章になっていました。こういう頼りになる人がプロボノとしてサポートしてくれると、市民活動をする人たちにとって、とても心強いと思います。

◆団体概要

YOKOHAMA ACTION PLANNER <http://yokohama-ap.jp/>

若者のアイデアや主体性、スキルを活かして社会貢献を行う団体。2010年7月に発足し、現在は20代、30代の若手社会人、学生など50名が所属している。主な活動としては、NPOのリーフレット作成、ホームページ作成などの広報支援活動、若手社会人同士の交流活動、他団体とのネットワークづくりなど幅広く活動している。